

かずさの博物誌

ヒドリガモ

～海面にきわだつ
額のクリーム色～

文・写真／成田篤彦

2012.12.20



▲ヒドリガモの群れ＝カモ目カモ科、マガモより小さい、冬鳥、全長雄約75cm、雌約53cm＝〈2012年11月24日富津市〉



▲ヒドリガモの番の威嚇＝右手2羽は番、手前はオオバン、左雄（2012年3月12日袖ヶ浦市）



▲ヒドリガモの飛行＝〈2006年1月12日富津市〉

©成田篤彦

©成田篤彦

©成田篤彦

©写真・文章の無断転載を禁じます。

先月、富津の船着き場で、ヒドリガモを撮っている時のことであつた。「上手く撮れましたか？」と漁師の方に声をかけられた。「撮れなかつたですね。すぐに飛んで逃げられました」と答えた。「上手く撮れたら、プロになれるよね」と言われて、大笑いした。写真を撮っていると全く面識のない方と話ができる。これもまた楽しい。

ヒドリガモは、船着き場のセメント底についているアオサを盛んについで、冬鳥として渡来する。日本には冬鳥として渡来する。岸や堤防に上がってイネ科の草の種子やアオノリなどの海藻や植物の葉を食べる。また、水面に浮かぶものを濾し採って食べる。上総では河口から中流域、堰、船着き場、波の静かな沿岸などで数羽

雄は「ピュー、ピュー」と良く通る口笛のような声で鳴く。さて、このカモはユーラシアの亜寒帯で繁殖し、ヨーロッパ、アジアの温帯から亜熱帯、アフリカ北部で越冬する。すぐ前の海面で、番同士が出会つた。両方の雌雄が鳴き合つて、雄と雌が口をあけて、他の番を威嚇する。時には水面に頸をつけて水しぶきを上げて、突進して脅す。犬が吠えたリ、頭を低くしうなっているような格好だ。それがユーモラスだ。雄は「ピュー、ピュー」と良く通る口笛のような声で鳴く。さて、このカモはユーラシアの亜寒帯で繁殖し、ヨーロッパ、アジアの温帯から亜熱帯、アフリカ北部で越冬する。すぐ前の海面で、番同士が出会つた。両方の雌雄が鳴き合つて、雄と雌が口をあけて、他の番を威嚇する。時には水面に頸をつけて水しぶきを上げて、突進して脅す。犬が吠えたリ、頭を低くしうなっているような格好だ。それがユーモラスだ。

いばんでいた。雄は頭が赤い茶色で、額がクリーム色だ。この額がとても目立つ。大きさはマガモより小さい。雌は茶褐色で目立たない。立って近づくと沖合に逃げる。岸壁に腰を下ろすと寄ってくる。



©成田篤彦

▲ヒドリガモ雄のえさ採り＝〈2009年12月15日富津岬〉

から数百羽の群れで秋、初夏まで見られる。最盛期は十一月頃である。このカモはスズガモのように大群でもないし、ヨシガモやマガモのように輝く色彩も見られない。また、オナガガモのようにバンクズを与えると寄つてきて、人になつくようなこともあまり見ない。だが、よく話題になるのはヒドリガモの群れの中に紛れ込む一、二羽のアメリカヒドリガモである。このカモの雄は額が白く、目から後ろが緑色に輝く。アメリカヒドリガモは冬前のとおり、アメリカ大陸で普通に見られるカモである。どういうわけかたまに日本にやってくる。残念だが、私はこのカモを見たことが無い。カモ類の観察は、滅多に訪れない珍しいカモを見つけるのが、野鳥愛好家の最も大きな楽しみである。皆さんも上総の水辺で、図鑑片手に珍しいカモ探しに挑戦して見てはいかがですか？